

平成 22 年 5 月 29 日現在

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2007～2009

課題番号：19510280

研究課題名 (和文) 19 世紀経済学におけるジェンダー意識

研究課題名 (英文) The idea of gender in the political economy of nineteenth century

研究代表者

清水 敦 (SHIMIZU ATSUSHI)

武蔵大学・経済学部・教授

研究者番号：90192111

研究成果の概要 (和文)：本研究は、ジェンダーという言葉が生まれる以前のジェンダー意識を 19 世紀の経済学を基盤として分析し、ジェンダーの本質を経済学の歴史の中で位置づけたものである。

研究成果の概要 (英文)：This study analyzed the idea of gender which was not yet fully developed in nineteenth century, and we settled the core of 'gender' in history of economic thought.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2008 年度	900,000	270,000	1,170,000
2009 年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：新複合領域

科研費の分科・細目：ジェンダー

キーワード：経済学史・ジェンダー・19 世紀・経済学・女性エコノミスト

## 1. 研究開始当初の背景

ジェンダー問題の認知や議論が歴史的に以下に推移し展開されてきたかに関する研究は、これまで多く行われてきた。また、19 世紀における経済理論、経済思想の展開に関する研究も膨大な蓄積がある。しかし、19 世紀の経済学においてジェンダー問題がいかに意識されてきたかに関する研究は、これま

で本格的に行われていない。そこで、本研究では 19 世紀の経済学や経済思想におけるジェンダー意識を探り出して分析することを課題とした。またイギリスを主たる研究対象としたが、その理由はウルストンクラフトのような傑出した女性解放思想家を排出しただけでなく、19 世紀経済学の中心国でありかつマーティノーウらの女性経済学者の活躍

もみられたからである。ただし、19世紀の経済学においては未だジェンダー概念が確立していない。このためもあって19世紀経済学におけるジェンダー意識をテーマとする既存研究もわずかしかなかった。そこで本研究では、このテーマを中心に据えながら、その関連領域も含めて広く検討を行うこととした。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、ジェンダーという用語法が成立する以前の19世紀を対象とし、当時の社会思想・社会理論の中核のひとつであった経済理論・経済思想においてジェンダーに係わる意識がどのようなものであったか、また当事の経済学とジェンダー問題がいかに関わっていたかを分析しようとするものである。それによってジェンダー問題の本質を経済学の歴史の中で位置づけて考察し、経済学とジェンダー問題の関連について、当時の状況を踏まえつつ現代の視点から検討を加えることを目的とする。

## 3. 研究の方法

まず、本研究に係わる内外の著書、論文等を収集し、その分析・検討を研究代表者、研究分担者が行った。この検討結果を持ち寄るかたちで研究会を毎年度定期的実施し、そこで認識の共有化を図るとともに、論点の相互検証を行った。

あわせてジェンダー問題や19世紀文化など分野の研究者を講師として招聘し、本研究の代表者・分担者と研究会を行った。

さらに研究分担者がイギリスにおいて現地調査を複数回実施した。具体的には、ケンブリッジ大学、ガートンカレッジのアーカイヴや、ロンドンのLSE図書館、ロンドン・メトロポリタン大学付属、ウーマンズ・ライブ

ラリーにおいて一次資料を含む文献資料の収集を行った。また19世紀女性エコノミストとして重要な地位を占めているハリエット・マーティノウについて研究するため、イギリスに本拠をおくマーティノウ・ソサエティの関係者と面談して情報の収集を行うとともに、マーティノウが居を構えていたイギリスの湖水地方の現地調査を行った。

以上の方法によって得られた成果を、研究代表者・分担者はそれぞれ論文や学会発表等のかたちで取りまとめ、それを相互に検証する作業も行った。

## 4. 研究成果

当事の著書や評論などにおいて明示的にかつ理論的に展開された経済学の内容それ自体をみるかぎり、19世紀イギリスの経済学においては確定的な用語法を伴う固有の概念としてジェンダー問題が取り上げられているわけではないし、階級問題や貧困問題と区別された独自の問題としてジェンダーに係わる事象が主題的に展開しているわけでもない。これは、ひとつにはリカードに代表される演繹的理論が経済学の主流をなしており、その理論がジェンダーを問わない三大階級論の枠組みで構成されていたことによると考えられる。たしかにマーティノウなど女性の経済学者の活躍はあり、経済学、経済問題に関して女性読者層が拡大したのも事実である。また経済学以外の評論の中に女性の自立を主張する論説がみられることも指摘できる。しかし経済学、経済問題を論じた女性たちの所説は、リカードやJ. S. ミルの経済理論の解説の域を基本的には出るものではなかった。女性の著者や読者の出現は、経済学におけるジェンダー問題の主題化を伴うものではなかった。また資本主義経済に鋭い批判の眼を向けたマルクスにおいても、その理論的枠組みが家事労働論等に寄与し

うる潜在的可能性を秘めていたものであるとはいえても、ジェンダー問題が明示的に分析されることはなかった。

他方、女性、とりわけ中産階級の女性たちがその地位向上・自立をもとめる動きのなかで経済学は一定の役割を果たした。ヴィクトリア時代の女子高等教育において経済学が位置づけられ、経済理論の修得の意義が認められていたからである。マーシャルの主張にひとつの類型を見出せるような女性に対する高等教育のあり方をめぐる当事の社会意識や議論をどのように評価するか、あるいはガヴァネスを典型とする女性の知的職業人の問題をどのように捉えるかという問題とのかかわりのなかで、経済学が果たした役割を明らかにすることは、検討すべき課題である。本研究では、こうした点についても検討を加え、いくつかの論点を示すことができた。

以上のような全体的成果とあわせて、本研究ではビアトリス・ポッターの思想と経済学観や、マルクスの理論体系の家事労働論への適用などの分野でも成果を得ることができた。

また 19 世紀に活躍した人々を多く含む女性の経済学者に関する研究書である B・ポーキングホーン、D・L・トムソン『女性経済学者群像』について検討し、同書を翻訳・刊行した。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 6 件)

##### ① 清水 敦

「労働力商品の特殊性と家事労働」  
武蔵大学論集 査読無 57 巻 2010 年 93-110

##### ② 櫻井 毅

「19 世紀イギリス経済学と女性の立ち位置」  
武蔵大学論集 査読無 57 巻 2010 年 667-685

##### ③ 船木 恵子

「19 世紀イギリスにおけるユニテリアン・フェミニスト-信仰、自立そして経済学」  
ピューリタニズム研究 査読有 4 号 2010 年 70-80

##### ④ 佐藤 公俊

「ビアトリス・ポッターの社会学的経済学の歴史的方法—生理学的方法から進化論的方法へ—」  
長岡工業高等専門学校 研究紀要 査読有 45 巻 2009 年 7-17

##### ⑤ 船木 恵子

「ヴィクトリア期におけるガヴァネスと女性労働問題」  
武蔵大学総合研究所紀要 査読無 18 号 2009 年 171-193

##### ⑥ 船木 恵子

「ヴィクトリア時代の女子高等教育」  
武蔵大学総合研究所紀要 査読無 17 号 2008 年 99-115

[学会発表] (計 6 件)

##### ① 船木 恵子

「ヴィクトリア期における女性の協働とポリティカル・エコノミー」  
57 回経済理論学会 東京大学 2009 年 11 月 23 日

##### ② 佐藤 公俊

「ビアトリス・ポッターの経済学とフェミニズム」  
仙台経済学研究会 2009 年 8 月 22 日 東北大学

##### ③ 船木 恵子

「ヴィクトリア時代におけるガヴァネスとクリスチャニティ」  
日本ピューリタニズム学会 聖学院大学 2009 年 6 月 18 日

##### ④ 船木 恵子

「J. S. ミルと女子高等教育—フェミニズムの理論と実践」  
73 回経済学史学会 慶応義塾大学 2009 年 5 月 30 日

##### ⑤ 船木 恵子

「ヴィクトリア期における女性の協働とポリティカル・エコノミー」  
経済学史学会東北部会 東北学院大学 2009 年 4 月 25 日

##### ⑥ 佐藤 公俊

「ビアトリス・ポッターの福祉経済学」  
社会理論学会 2009 年 3 月 14 日 中野勤労会館

〔図書〕（計1件）

① B・ポーキングホーン, D・L・トムソン  
著 櫻井毅監訳・木村直人・天野孝俊・船木惠  
子・清水敦・小野成志・佐藤公俊・中川辰洋  
（翻訳）『女性経済学者群像』御茶の水書房  
2008年 243頁

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

清水 敦 (ATSUSHI SIMIZU)  
武蔵大学・経済学部・教授  
研究者番号：90192111

### (2) 研究分担者

櫻井 毅 (TSUYOSHI SAKURAI)  
武蔵大学・名誉教授  
研究者番号：20061385

船木 惠子 (KEIKO FUNAKI)  
武蔵大学・総合研究所・研究員  
研究者番号：00409369

### (3) 連携研究者

佐藤 公俊 (SATO KIMITOSHI)  
長岡工業高等専門学校・教授  
研究者番号：00178716